

2019年度

アクションプラン

公益社団法人 栃木県サッカー協会

目 次

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念	・ ・	P	8
公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン	・ ・	P	8
公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み	・ ・	P	9
2019年度のTFA活動目標	・ ・	P	10
1. 第1種委員会・社会人連盟	・ ・ ・	P	11
2. 第2種委員会・高校連盟	・ ・ ・	P	11
3. 第3種委員会・中学連盟	・ ・ ・	P	12
4. 第4種委員会・少年連盟	・ ・ ・	P	12
5. 女子委員会・女子連盟	・ ・ ・	P	14
6. クラブユース連盟	・ ・ ・	P	15
7. シニア委員会・シニア連盟	・ ・ ・	P	15
8. 技術強化委員会	・ ・ ・	P	15
9. フットサル委員会・フットサル連盟	・ ・ ・	P	16
10. 審判委員会	・ ・ ・	P	17
11. キッズ委員会	・ ・ ・	P	21

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み(TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標(TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 <small><2018年度></small>
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	<ol style="list-style-type: none"> 第1種登録チームの選手登録数の拡大 U13~18年代の選手登録数の拡大 女子の選手登録数の拡大 フットサル選手登録数の拡大 	<small><2018年度></small> サッカー選手登録 16,149人 フットサル登録 540人 審判員 5,636人 指導者 2,306人 計 24,631人 県民人口 1,952,120人 県民の 1.26%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として20名以上活躍する。	<ol style="list-style-type: none"> 代表チーム強化 選手の強化・育成 指導者の育成 	日本代表 0人 女子日本代表 1人 Jリーガー 20人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10</u> 入りする。	<ol style="list-style-type: none"> 組織内の連携強化 組織基盤の確立 実施事業の充実 	全国ランキング 第20位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	<ol style="list-style-type: none"> 連携・共存体制の確立 サポート体制の確立 協同連携事業の実施 	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の人工芝サッカー場が15面に増加する。	<ol style="list-style-type: none"> 対象自治体への整備要望活動の展開 	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 4面 ・矢板市 3面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 ・真岡市 1面 ・さくら市 1面 ・足利市 1面 計 18面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	<ol style="list-style-type: none"> 代表チーム強化 選手の強化・育成 指導者の育成 	

2019年度のTFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大（グラスルーツの普及促進）
＜プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す＞
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍
＜全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す＞
- (4) 茨城国体でベスト4以上を目指す
- (5) J2栃木SC・関東リーグ 栃木シティFC及びヴェルフェた
かはら那須との連携・協力体制の確立
- (6) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8) 2022年栃木国体「総合優勝」に向けた5か年行動計画の推
進
- (9) 財政の健全化<新たな収入源の確保>

1. 第1種委員会：社会人連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグチーム強化 ・ 各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・ Jチーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・ 栃木国体に向け本大会連続出場への取り組み ・ 県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・ 関東社会人大会(栃木県開催)の円滑な運営に向けた取り組み ・ トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み ・ 登録チーム数を増やすための取り組み ・ 登録チームを継続するための取り組み ・ 公式記録作成者の育成 ・ 0-35 カテゴリー新規事業への取り組み <p><数値目標> 事業及び委員会への出席率をUP (60%へUP) 登録チーム数をUP (2020年度登録時に3チーム増やす)</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大会の活性化 ・ 各委員会(総務・審判・技術・競技)の確立(適数人員) ・ Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・ 栃木国体に向け役員の育成と質の向上を目標に大会運営を行う ・ MC資格保有役員は関東リーグマッチコミッショナーを1試合以上担当する。 ・ 新規チーム数を増やすための募集・広報活動 ・ 登録チーム継続のためのサポート活動 ・ 公式記録作成研修会の実施 ・ 0-35の新規大会の実施
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第53回関東社会人サッカー大会 ・ 国大関東ブロック大会 ・ 県内トーナメント大会 ・ 各委員会メンバーの適正化 ・ J2・関東リーグとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校サッカーの活性化(男女) ・ 高校サッカー部員の増加(男女) ・ 本県代表校の活躍(男女) ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝</p> <p><スローガン> サッカー環境の整備(気持ちよくサッカーができるように)</p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理体制の充実 ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 審判員の充実

	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県ユースサッカーリーグ U-18 のよりよい運営 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに90%以上のチームの参加 ② 公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③ M4による指導者講習会への参加率85%以上
	<p><スローガン></p> <p>より良い育成環境を目指して</p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・3種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ（1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ） ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2019年度の活動目標	<p>【競技】 ①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地域】 ①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技術】 ①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②地区トレセン指導者の育成とレベルアップのための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携</p> <p>【審判】 ①研修会の充実 ②ユース審判員の発掘と育成 ③技術強化委員会との連携</p> <p>【広報】 ①正確な情報の迅速な提供</p> <p>【女子】 ①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと</p>
-------------	---

	<p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4 以上 4 種技術委員のB 級取得者を増やす</p> <p>【審判】 4 種委員会から3 級インストラクターを2 名以上輩出</p> <p><スローガン></p> <p>【技術】 プレーの質を追求しよう</p> <p>【審判】 基本に忠実に</p> <p>【広報】 正確・迅速</p>
<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>【競技】 ①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】 ①トップリーグ・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会（県大会申込書） イ 技術強化委員会（県トレセン） ウ 審判委員会（4 級取得講習会） エ 広報委員会（地区大会結果の報告） オ 女子委員会（県トレセンへの推薦）</p> <p>【技術】 ①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセン活動への指導協力 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加 ・県技術委員のB 級取得促進</p> <p>【審判】 ①3 級審判員研修会の充実 ②3 級インストラクターの育成・輩出 ③ユース審判員・若手審判員の発掘と育成</p> <p>【広報】 ①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報活動</p> <p>【女子】 ①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>【競技】 ①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】 ①地域委員会の定期的開催（年1 2 回開催） ②トップリーグ・地域リーグの運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】 ①地区トレセン活動の活性化 ・トレセンマッチデーから県トレセンへ推薦 ②県大会での優秀選手選出 ③関東トレセンマッチデー、MT Mトレセンマッチ、フットボール・フューチャー・プログラム等での他県の選手のレベル・戦術分析と本県選手のレベルアッププログラムの編纂</p>

	<p>【審判】 ①審判研修会の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール講習会（指導者・帯同審判員） ・実技指導者研修会（各地区3級審判員） ・3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者） <p>②異なるカテゴリーへの審判員等を積極的に派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民体育大会（1種） ・高校サッカー選手権大会（2種） ・下野杯（3種） <p>③他種別との連携を図り、ユース審判員や若手審判員を各種大会で積極的に割り当てる。</p>
--	---

5. 女子委員会：女子連盟

<p>2019年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 ・JFA普及コーディネーターの活用 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラスルーツ2回 ・ワンデークリニック2回 ・審判トレセン2回 <p><スローガン></p> <p>栃木からなでしこへ「未来へ繋げる」</p>
<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15トレセン活動の充実・強化 学年別（U-13／14／15）のトレーニングで個のレベルアップを図り、JFAエリートプログラムやナショナルトレセンに繋げる。 ・U-18トレセン活動の充実・強化 国体成年女子選抜チームとの連携 ・国体成年女子選抜チームの強化 ・国体少年女子選抜チーム（2022年）を見据えた取り組み U-12女子トレセンとの連携 ・普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。（例：JFAなでしこひろばの活用） ・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン女子U-15／U-18 ・U-12女子トレセンとの連携 ・グラスルーツ ・ガールズ・レディースフェスティバル ・審判トレセン

6. クラブユース連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上
	<数値目標> 関東大会でのベスト8以上
	<スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグを含めU-14 の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15 リーグ・U-13 リーグ及びカップ戦 ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チーム・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・全国大会予選会の突破
	<数値目標> 各年代（0-40・0-50・0-60・0-70）の全国大会出場
	<スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・JFA 第9回 0-70 サッカーオープン大会関東予選の開催のための大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（0-40, 0-50, 0-60）5月・8月9月 ・シニアサッカーリーグ（0-40, 0-50, 0-60）4月～3月 ・JFA 第9回 0-70 サッカーオープン大会関東予選の開催 11月

8. 技術強化委員会

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 栃木国体+10年を視野に入れた諸事業の検証・再実行 ・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・栃木 TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用
	<数値目標> 関東トレセン大会各種別 A クラス入り
	<スローガン> 全県一致

<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国体強化策の具現化 成年男子：栃木トップクラブの連携のさらなる深化 女子：成年選抜チームの発足、栃木 SC との連携 少年選抜チーム作りに向けての具体的アクション 少年男子：U14 早生まれ及び U13 県トレセンの強化 ・ トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために） ・ 各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内 B 級コースの解説 ・ テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-14 トレセン海外遠征 ・ U-14・13 県トレセン強化策 ・ 地区トレセンの強化＝県内指導者の育成（情報の共有） カテゴリーを超えた連携

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2019年度の活動目標</p>	<p>U-18、U-15年代の指導者がフットサルの重要性を認識してくれていることは感じられるが、この年代の選手はサッカー登録している選手がほとんどでサッカー競技の試合日程とフットサルの大会日程が重複しているために、関心を持ちながらも参加できない状況があることは残念である。この年代の委員長やサッカーの指導者との交流を深め、フットサルとサッカーの在り方等を協議していき、日程の調整など良い方向にもっていくことが重要となる。それが、本県のフットサルの普及にはつながるのではないかと考える。</p> <p>さらにフットサルの普及・振興のために、フットサルイベントを企画してフットサル未経験者や多くの方にフットサルに触れる機会を増やすための広報・普及活動も急務である、また、若い年代の技術の向上や試合の経験値をあげるためにクリニックの計画的実施し、若手の指導者の育成など、中長期的な課題として今後の本県フットサルをより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、フットサル委員会・連盟事業の多岐にわたるようになってきていることから、連盟を組織の充実を図る時期になってきている。</p> <p>大会会場が体育館で、他団体との競合で施設の確保が困難であるが選手に良い環境でプレーしてもらいたいため、会場の確保に努力とともに県協会に働きかけをして、協会の持つ体育館設置への働きかけをしていきたい。</p> <p><数値目標> 男女の登録選手数500名を目標に増加させる</p> <p><スローガン> 栃木のフットサルの振興と競技力の向上</p>
--------------------	---

<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>①男女栃木県リーグの選手数及びチーム数増加と安定稼働 ②各年代におけるフットサル大会の運営と選手の発掘 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 ファミリーフットサル オープンフットサル大会</p>

10. 審判委員会

<p>2109年度の活動目標</p>	<p>①JFA、関東協会(KFA)ともに審判育成・審判指導者育成のためシステムを改善・再構築している。その波に乗るだけでも大変であるが、審判委員会の委員の協力があり、各方面で質を高めている。来年度は委員改選の年でも有り、今年度の反省を活かし、若干の組織の改正を考えている。</p> <p>②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施している。講義形式が多く、実技研修(プラクティカルトレーニング)がなかなか実施できないのは残念であるが、3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用できはじめた。指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。</p> <p>③ユース審判員のレフェリースクールも軌道に乗り、3級ユースの増員、2級ユースの誕生と話題は明るい。4級審判員も急増しており、今後はその活躍の場やフォローアップの機会を確保しなくてはならない。女子についてはJFA審判トレセンを実施しているが、なかなか強化できないのが歯がゆい。ユース育成については、予算面も見直さなくてはならない。</p> <p>④トップレフリーセミナーⅡは原崇氏の1級合格を機会に発展的に解散する。この5年間で5名の1級審判員が誕生し大きな実績を残せたと思う。今後は1級にチャレンジできそうな審判員は強化審判員研修会を実施する。また、若手を中心にレフェリアカデミーを相樂氏にチーフとなってもらい実施していく。</p> <p>⑤インストラクタートレセンにインストラクターを参加させサポートした。上級の指導者を育成する。</p> <p>⑥作新大学を中心に大学生向けの講習会を実施し、即戦力の審判員育成を図り始めた。今後も継続する。</p> <p>⑦シニア、フットサルにおいても限られた人材・予算であるが、改善を目指し、各大会・講習会をスムーズに運営する。</p> <p>⑧IT技術を導入し情報の共有を図り、審判員の研修に役立てる。</p>
--------------------	--

	<p><数値目標></p> <p>①審判員登録数を1級：8名、2級：70名（関東で実働40名）、3級：500名（2級受検候補5名）、女子2級：4名 3級：6名</p> <p>②4級：4500名、フットサル：600名、女子審判員：180名を目標に育成する。（中期、長期）</p> <p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM（審判仲間の夢への挑戦）</p>
<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）</p>	<p>（1種）</p> <p>①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を育成して拡大する。</p> <p>②3級審判員研修会の実施 3級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。</p> <p>④ 種別との連携 他種別との連携により、1種大会の審判員を増やすとともに、他種別を経験することで審判としての幅を広げる。</p> <p>（2種）</p> <p>①4級ユース審判員の増大・更新の定着を図る。</p> <p>②ユース審判員の育成を充実させる。</p> <p>③若手顧問の強化・育成を図る。</p> <p>（3種）</p> <p>①審判研修会の充実 ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会（年1回以上）の実施 ・インストラクターの活用</p> <p>②若手審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の拡大（2級審判員・3級審判員の増員）</p> <p>（4種）</p> <p>①研修会の充実を図り、3級審判員の増員を図る。</p> <p>②第4種から3級インストラクターを2名以上輩出する。</p> <p>③ユース審判員の発掘と育成に努める。</p> <p>（女子）</p> <p>①3級昇格者2名その為に4級新規審判員取得者を増やす。</p> <p>②関東派遣者1名育成する。</p> <p>③チーム帯同審判員の研修会実施。</p> <p>（シニア）</p> <p>①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。</p> <p>②シニアの各カテゴリー（0-40 から 0-60 まで）において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。</p> <p>（クラブ）</p> <p>①2級審判員1名を輩出させる。</p> <p>②2級を目指す3級審判員を指導・育成する。</p> <p>③3級を目指す4級審判員を指導・育成する。</p> <p>④チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。</p> <p>⑤3級インストラクター候補者を指導・育成する。（新規）</p> <p>（フットサル）</p> <p>①引き続き女性審判員の育成と若手審判員の確保を行う。</p> <p>②上級昇格希望者を育て支援を行う。</p>

	<p>(指導・育成・インストラクター)</p> <p>①審判委員会組織の見直し、指導育成部を強化と育成に分けて活動の分担化を明確に図る。強化部門として強化審判研修会やトレセン、育成部門としてレフェリーアカデミー、3級昇格審査、フォローアップ研修、登録更新、取得講習会、レフェリースクール等を分担していく。</p> <p>②トレセン、リーグ戦、輪番の大会等審判実技研修の機会を設定し、あわせてインストラクターの派遣も効果的に継続性を持たせて実施する。</p> <p>③2級、3級審判員及びS I 3の増員。</p> <p>④ユース審判員、女子審判員、及び上級を目指す若手審判員の発掘方法の検討、具体的な育成案の作成。</p> <p>(競技部)</p> <p>①kickoffサイトの有効利用 インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。</p> <p>②各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。</p> <p>③在野の審判員の発掘 級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。 ここで指導育成した審判員を各種別で活躍できるような仕組みを作る。(4級、3級のスキルアップ) 県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <p>①1種大会(県リーグ、知事杯等)やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。</p> <p>②派遣審判員を対象にした1種主催の研修会を開催する。</p> <p>③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。</p> <p>④サッカーから離れた方策でのイベントを開催することで審判員のコミュニケーションをより強化する。その際に、他種別にも声をかけて連携にも繋げる。</p> <p>(2種)</p> <p>①ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユース審判員の環境整備を行う。(4級審判員資格取得料金と更新料金を1500円に変更・レフェリースクール生の保険加入) ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし4級取得者が継続のために更新も行う環境を作る。 ・2022年栃木国体に向けて、レフェリースクール生を2級審判員や3級審判員に昇級させる。 ・全日本少年サッカー大会で準決勝・決勝を担当できるユース審判員を育成する。 <p>②顧問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当して指導する。 ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。 <p>(3種)</p> <p>①研修会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月ー中学校県新人大会最終日 ・12月ー下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合

- ・ 3月ー東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力
(多種別との交流を含めて)
- ・ 年1回以上の地区別研修会の実施(インストラクター派遣)
- ②審判員の発掘と育成
 - ・ 多種別の審判員との交流を推進する。
(3種→2種・1種へ) (4種→3種へ)
 - ・ 地区担当者との連携強化
- (4種)
- ①審判研修会を計画的に実施する。
 - ・ 実技指導者研修会(各地区3級審判員)
 - ・ 3級審判員研修会(3級審判員のうち希望者)
 - ・ 3級審判インストラクターの研修会
- ②他種別へ審判員を積極的に派遣する。
 - ・ 県社会人リーグ、知事杯など(1種)
 - ・ U-18リーグ、高校サッカー選手権大会(2種)
 - ・ 下野杯(3種)
- ③他種別との連携を図り、ユース審判員を各種大会で積極的に割当する。
- (女子)
- ①JFA女子トレセンがなくなる為研修頻度は落とさず予算の確保をお願いする。
- ②1月帯同審判員講習会 5月ユース審判員講習会 11月ユース審判員講習会 県リーグ時毎回実施 訓練研修会 3級取得者向けルール講習会
- ③女子公式戦決勝4名女子で実施
- (シニア)
- ①審判の取得・更新を通知で啓発する。
- (クラブ)
- ①チーム帯同審判員の研修会の充実
 - ・ 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県最終日
 - ・ 下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会準々決勝
- ②2級を目指す3級審判員及び3級インストラクター候補者の指導・育成
 - ・ 栃木県U15・13リーグ
 - ・ 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県
 - ・ 高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
 - ・ 3種リーグチャンピオンシップ
 - ・ 下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
- (フットサル)
- ①上位のカテゴリーの試合や研修会で知り得た情報を県リーグを担当する審判を中心に共有する(随時)
U-12の審判講習会を引き続き開催する。(1回)
- ②各種講習会については、効率的で効果的な運営を検討し確実に実施する。
- (指導・育成・インストラクター)
- ①種別、級のカテゴリー枠を越えた研修会事業の実施。
- ②審判トレセンを活用したインストラクターの指導スキルアップ研修会の実施。
- ③インストラクタートレセンへ向けた準備と取り組みを行なう。

11. キッズ委員会

<p>2019年度の活動目標</p>	<p>〈全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー未経験者の参加者数の増加 <p>〈巡回指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携（キッズ委員会以外からのアプローチも模索） ・指導先の拡大と受益者負担への働きかけ ・TOYATAとの協働による指導内容の充実 ・巡回指導スタッフの発掘 <p>〈フェスティバル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区フェスティバルの内容の充実（チーム対抗戦だけにしない） ・JFAフェスティバルの回数増加 ・他種別（特に4種と技術委員会）との連携での開催 ・サッカー未経験者の参加増大（未経験者が来て初めて普及） <p>〈キッズリーダー講習会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大・専門学校等、教育者育成機関での開催 ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催 <p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち延べ23,000人との交流 ・サッカー未経験者延べ500人の参加 ・キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名） ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催（2回） <p>〈スローガン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・ 栃木をキッズ王国に
<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導 380回（実質90園・小学校40校） ・JFAフェスティバル、および各地区フェスティバルでの未経験者の参加へのアプローチと参加者の増加（目標500名） ・各地区フェスティバルの年2回以上開催 ・フェスティバルの内容の充実（チームの対抗戦だけにならない、研修会を兼ねる、グラスルーツ方式） ・他種別との交流事業の充実
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAグラスルーツフェスティバル ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・キッズリーダー養成講習会 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・栃木SC・栃木シティーFC・ヴェルフェFC等の巡回指導 ・キッズ研修会